

くらし・家庭

谷中のリボン

④ 山崎 範子

「谷中とリボンとある男」展では、来場者からも情報が寄せられた。実際に工場で働いていた人に会えたのも、この時期である。のこぎり屋根の保存部材や渡辺四郎コレクションの収蔵先探しも、本気で始めた。これらの資料は、そういったつまでも個人レベルで保管できるものではない。部材については、

解体から4年間、リボン工場の出資者の一人でもあった渋沢栄一ゆかりの会社、澁澤倉庫が搬出・保管を無償で引き受けてくださっていた。

文献資料の収蔵先は、「リボン会議」と称した勉強会で、東京家政大学博物館学芸員の三友晶子さんが紹介してくれた資料がきっかけで、具体化した。

「私達は六月二十三日（火曜日）昼から谷中のリボン工場に行きました／第一に入った部屋は糸を並べる所で、その右隣の階段を登っていきますと／当工場の製品、リボン応用の手芸品、及び参考品が沢山並べてありました／今、此の工場では主に夏帽子のリボ

研究者のもとへ

ンを織っているのとこのとでした。それらの美しいリボンの中で、写真織が一番私達の目を引きました／部屋には五十二台の機が十馬力の電力で動かされ／機の中で六挺おさの付いたものは日本全国で此の工場に丈有るのだそうです（抜粋、原文は旧漢字旧仮名）。谷中のリボン工場の姿が鮮やかに浮かぶ。

この文章は、渡邊女学校出版部発行の『裁縫と家事』（昭和6年度第29巻7、8月合併号）に掲載された見学記事「千代田リボン製作所」。渡邊女学校とは、現在の東京家政大学である。



谷中のリボン工場
で織られたリボン



「谷中リボン」
展は2023年2月東
月6日京家政大
物館で

そして2021年3月、「谷中のリボン 渡辺四郎コレクション」は、研究者のいる東京家政大学博物館に収蔵された。長い時間を見つけたのだった。

(谷根千工房)(おわり)